

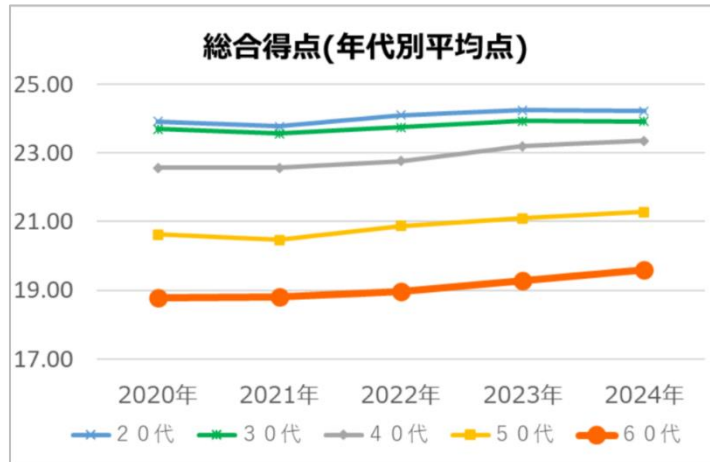


日常管理

高年齢対策

少子高齢化による雇用延長に伴い、当社でも2030年後半に従業員の半数以上が50歳以上となります。そのなかで全社的に体力低下や障害発生リスクを最小化して身体機能を保つための活動を進めています。全社共通の活動として、健康診断のときに6項目の身体機能を測定し、傾向管理および自助努力のきっかけづくりをしています。トレーニング要素を織り交ぜた「元氣いきいき体操」を作業前に各職場で行うことを推奨するなど、運動機能の維持・低下抑制を図り、身体能力の総合得点は年々向上しています。

＜全社の体力傾向＞



蓄積した体力測定データを分析して、元氣にいきいき働けるカラダづくりの目標を設定し、達成に向けた自助努力をアシストするプログラムを一部の部署で試行中です。「カラダ維持プログラム」と題し、職場での定期的な体力測定や、ハイリスク者に専門家とのトレーニングを実施しています。99%の受講者が満足感を得られ、82%がトレーニングを定着できています。

年齢を重ねても従業員が第一線で活躍し続けられる意識を醸成し、高年齢化した社会の中でも元氣に過ごせるように働きかけています。

また、社内刊行物を発行し、ライン作業が継続できているいきいき働くシニア社員を紹介。実践している健康行動などで現役従業員の意識啓発と行動変容を促進しています。

＜専門家とのトレーニング＞

